京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十年[illegible]
本紙 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十錢
廣告 ▲五號活字十七字詰一行金[illegible]▲[illegible]
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久辨一郎
京城西小門通
發行所 京城新報社
電話 大三番
仁川宮町三丁目 仁川支局
東京市京橋區南佐柄木町七番地 東京支局

●冥府の伊藤公へ（十四）

悠々縮々庵主人

●閣下同化は形而下の問題に非ず形而上の問題なり御說の如く行ふべきに非ず精神上自然の歸着を俟たざるを得ず、されば他を同化せんとするものにありては被同化者の凡ての欲望を同化者其の者の既に得たる欲望と同一程度又は少なくも夫れに近き程度に進めしむる然らざれば被同化者其の者の義務履行の範圍に於て恩を施し誼を厚うせざる可らず斯くして始めて眞の同化は行はれんのみ然るに此の理に則らずして漫然同化を口にす之れ恰も百年黃河の濁きを俟つと毫も異なる所なし蓋し日鮮の同化又之れに外ならず爲政者及び經世家の審慮熟思を俟たざるべからざる固より言ふを要せず而して凡ての點に於ける同化否な重に政治上及び社會上に於ける同化の方法は多々あらんも先づ政治上に於ては憲法施行問題の如きは第一のものならん尤も同問題は母國の學者間に於ける重大問題に屬し從つて爰に輕々しく可否の論を試むる能はずと雖も更に他の政治上及社會上の方面よりして同化を促すの方法亦決して之れなきに非ず尤も同化の方法に就ては當局にあつても大に苦心し同時に着々として實行に努め居るを以て何れ相當の星霜を經たる後には其の効果の現はるゝは勿論なりと雖も若し誤つて其の方法にして宜しきを得ざらんには折角の苦心と努力とをして空しく水泡に歸せしむるのみならず却つて惡結果を來すなきやを保すべからず之れ當局の猛め警して且つ戒めざるべからざる所なりされど同化は唯に當局の責にのみ負はしむべからず母國移住民にあつても大に之れが實行に努めざるべからず之れ要するに鮮人啓發の根本意義にして又母國民當然の天職たり

●閣下寺內總督は今や帝都に在り諸般の用件略ぼ終了を告げたるを以て期月ならずして歸任の途に就かるべしと傳へらる歸任の日朝鮮の施政に就て更に一進展を畫するや明けく同化の業又何等かの手段に依つて其の歩を進めんのみ予は閣下と共に靜かに今後に於ける伯のお手際を拜見せん哉

●閣下時維れ秋氣天に橫はつて蕭殺の氣四邊に滿つ閣下に與ふる所の緒未だ十回を重ねざるに早くも季は變轉して高天肥馬の候とはなりぬ菲才淺識の予大に燈火に親まざるべからず加之閣下に於ても將に耽想入定の季に入るならべしされば予は餘情を割いて爰に筆を擱かんとす拙劣粗笨の文秩序不同の論閣下を煩はす事甚だし若し夫れ壯嚴なる閣下の威靈を冒瀆せし罪にいたりては鮮の之れに加ふべきものなし恐々縮々庵の名の因つて起る所以蓋し爰にあり予が閣下の爲めに圖つて朝鮮の現狀を報告論述せし衷情にいたりては冀くは一片の諒を垂れ給はんことを（二十二日午後二時稿）

●下宿屋の一日（三）

△○生

腐つた魚と胡瓜揉とでは我輩の僭上なる胃袋は到底滿足せぬのである、我輩は由來此傲慢にして不遜なる胃袋を膺懲すべく多年苦心慘憺して謀を廻らすのだが覺に未だ退治策を發見し得ない、或時は積極的に燒酎一塊を以て食道喩を突破し樣としたが爲に甚しく其反抗を買ひ再び此策を執ろうとした時は大に胸をムカツカされて斷念せざるを得なかつた、或時は消極的に一物をも胃の腑に送らぬ事にしたが此際は流石の頑敵も閉口したと見ねて頻りに哀訴嘆願して來たので已むを得ず國幣數錢を投じ食麵麭一箇を以て慰撫した念ふに四肢五體は即ち我輩の機械である命じて以て從はずんば之を罰し之を刑し須く柔順命維從はしむべし、而かも黨を組み探を集め竹槍蓆旗腹皮背骨相接するに至るも猶且つ傲慢不遜にして粗食をとるを肯んぜずんば仕方がないから代ふるにツバのかけ一杯を以てして之を胡魔かさんのみ、然し思ふに之身內に在つて主將の命をきかずんば直に切解して村上義光の如く胃の腑を體外に摘棄するの快なるに如かんやだが考へて見れば又憫な所もある、彼や貧主我輩の如きに仕へて昔はお坊ちやんの珍羞佳肴に其の小さき袋を充たして居たけれども主公年老ひて運衰の以來一膳飯の味薄きを忍び馬肉屋の酒臭きに堪へて懷中の程を慮つては猥りに袋內の空虛を訴へず、一張一縮其蠢動を變へずして消化に盡したる事、其忠勇賞するに餘りありしかも猶此酷遇を受くるべからずである。されば汝の彈倖や一片同情の涙なかるべからずである。そこで今晩はひとつ忠實なる胃袋の爲に兼ねて主公の巴里漫遊を了へた歸朝說に婢を呼んで牛肉と鷄卵とを命じて又ウヰスキーの杯を擧げた、鼈角が拌發を持つて來たので火を點ける、大阪毎日を吞み乍ら讀むと四川省の暴動が大分ものになりそうだ、先年某所で逢つた〇〇〇氏や〇〇〇氏も筆を投じて我軒を事として居るだろうと思つて地圖を展へて萬折の話などを考へ合はして見ると脾肉の隘踏も揆すられる、けれども今暫く消息のあるまで待たなければならぬ。覺ねず縱橫謀不就、杖策謁天子と高唱する。

文苑

●其の日く 杉の舍主人

月●前●草●花●

八千くさのうの花ごとに露たきて そのつゆごとに月ぞやどれる

野●秋●興●

七草のはなをりながら[illegible]ち栗も 籠に餘るまでひろひぬるかな

秋●夕●

さびしさの[illegible]ひくる心地して にぐるかたなきあきの夕暮

俳句

●秋季雜吟 多田千春

初汐の置いて去りけり破れ笠

古てらも掛けた案山子や寺の畑

秋の寂深し木への一つ柿

秋の蚊の喰ひかねた毛脛哉

豐かさを語る稻雀

門先は國界なり鹿の聲

一葉散る朝や持ち心

名月や惜まるゝ雲はむる雲

露の玉一つも零のなかりけり

かけ稻や大根する道入口

●新刊紹介

●實業界 田尻博士の「我銀行の經營上革新を要する點」は時代と照合し克く其正鵠を得横山源之助氏の「濟生會寄附金額に現はれたる富豪の面影」は富豪平生の半面を描寫して遺憾なしといふべし（一部十八錢東京神保町同文館）

●實業の世界 全篇活氣滿ち快文字多し「新內閣成立と國民の覺悟」「山本[illegible]澤男」の成功失敗糟粕論を評す」「山本[illegible]相」の人物等は再讀三讀の値あり（一部十錢東京芝愛宕町實業の世界社）

●株式界 「內閣更迭と株式界」「株式仲買と取引銀行」の二社說何れも讀むべく其の他の記事又參考に値す（一部十五錢大阪東區今橋三丁目北治株式店）

●雲 「浪花節は何故向上せざるか」「浪花節衰ふ」は大に味ふべく時評欄にあつては大隈伯の「お手並拜見」佐々木照山の「南朝の姥」大に讀むべしとなす（一部十五錢福岡縣筑紫郡警固村明倫社）

●ダマツキ 「說苑」「東西南北」「撞球圖解」等は斯道に經驗なきものと雖も容易に解すべく解して直ちに其の道に入るを得べし（一部二十錢東京赤阪區福吉町球友會）

●滿韓公論 號を重ぬるに從つて體裁整ひ稍氣旺なり井上角五郎氏の「朝鮮及び滿洲に對する感想」松井茂氏の「憐むべき朝鮮人」竹越三叉氏の「植民地の守備は植民兵を用ひよ」等は何れも堂々たる文字なり（奉天滿韓公論社）

●朝鮮家庭新聞 瀟洒たる編輯振りなり社說訪問錄何れも實あり趣あり「殖民地に於ける家庭」出でゝ愈々佳境に入り其他の記事亦讀むべしとなす（一部四錢京城南山町三丁目朝鮮家庭新聞社）

召使お初 第百五十回

黑法師

「旦那樣々々」とお察は再び呼びかけて「どう遊ばしたのでございます、此の御樣子は何事でございます」「そなたまだ行かぬか」とお道は顏を背けたるまゝ「何として居やるぞの」「旦那樣御樣子、後に見ては行かれませぬ」とお察は心配の眉を顰め「何ぞ遊ばしたのでございます、譯を仰せござりませ」「譯とては無い、又胸が悶ゆるわ喃」と血を絞る聲なりき「私の事に管ひはないで、そなた早う行てたもれの」「旦那樣御病氣、見捨てゝはなりませぬ、海老屋への御消息、仲間衆を賴み參らせ、私は御介抱、女の歩にはぼつ〳〵と參るより、仲間衆の早い歩お賴み申すが結句好いでございます、お待ち遊ばしませ、只今お摩り申します」と云ひ掛けて起たんとす「お察」と例になく聲を鋭く「仲間衆で終むことなりやわざ〳〵そなたを賴みはせぬわ」「さればとて、此の樣子、お側を離るは口惜うござります」「そなた主の詞を背くおやの」「とはござりませぬも」とお察は慌しく胸を撫で「胸騷ぎも致します、後髮も引かれます、お側にお仕へ申して後斯ほどの御無理をお願ひ申したことでございませぬ、一生一度のお願ひ、お聞き屆け下さりませ、今日ばかりはお側にありたうござります」

お察の忠義厚き心は、潤みたる目の中に溢れたり、されぱこそ、斯ほどまでに云ひ與れる志を無にするは身を切るより辛けれど、生きるに道なき運命の果敢なさは、心を鬼に、此の情をも仇に報ゐでは償はじ

お道はきつと振り向きて「これはしたり云ふぞ、そなたまだ肯かぬ、さては女の主と侮り、氣隨氣儘云やうおやの」「勿体ない、左樣ではござりませぬ、大切御用と存じながら、お胸の悶ねて居りますを、後に見るが情無う、只今の如に申し上げたを後悔して居りますする、只御恕しござりませ、此後きつと我儘は申しませぬ」「それなら早う行きやらぬか、そなたで無うては協はぬ用、餘人で事の終むことぞ、そなたに恃む密は無い」とお道は涙を切る、お察の眞心殊々と胸に迫りて、針の如くに骨を刺す、今は詮せん術も無し、お察は覺悟を極めながら「お詞に從ひまする、一走りに行つて參りまする、私の歸るまで、悉くござりませ、假へ誰が參らうとも、じつとお籠遊ばすのでござります、女ながら察が引き受け、旦那樣お恨み晴らさずには置きませぬ」「そゝ」とお道は我知らず聲かけ「私の恨み受け繼いでたものぢやの」「旦那樣のお恨みは私の恨み、旦那樣の御恥辱は私の恥辱でござりまする、私一命のある限り、敵を報たずには置きませぬ、お恨みを散らさずには置きませぬ」「其の心を杖と賴んで、そなた歸りを待ちてあるわの」と、お道はほつと一息つぎ「召使とは思はぬ、肉身の姉、肉身の姉と力に思ふぞ、前途に怪我の無いやう、私も祈る、そなた氣を付けてたもるおやよ」

お察は座敷の外に泣き伏して、聲に遍ふ青葉の風そよ〳〵と消しかりき



峯岸水浪君に與ふ

釋尾旭邦生

◎水浪君足下、足下の經營せる京城新報は發行停止の筆禍に罹ること何ぞ然かく頻々なる。余の記憶する所に依れば本年既に五回の筆禍に逢ふ、然して長きは三週間、短きは一週間、酷刑と言ふべし、足下の苦痛と憤恨想察するに餘りあり。

◎吾人は足下のひねくれ者たるを知る、惡戯を好む性癖を知る、而も未だ正々堂々の陣を施きて眞向より總督に肉薄したるを知らず、又未だ總督政治の根底を傷くる如き言議を弄したるを見ず、總督政治を中傷讒謗したるを知らず、未だ朝鮮人を煽動したるを知らず、未だ日本人を煽動したるを知らず、寺內明石其他の官權に對して不穩の文字を弄したるを知らず、所謂治安を妨ぐる如き文字の紙上に現れしを見ざるなり、寧ろ言はんとして言ふ能はず、叫けばんとして叫けぶ能はざるの跡歷々として紙上に痕せられ、戰々兢々寺內明石二君の逆鱗に觸れざらんことに氣兼ねし其謹愼さ加減遠慮さ加減は亦嘗年の峯岸にあらずと、足下の健在を疑はしむる程なり、足下亦時代と官權とに抗し切れぬものと見ゆ。

◎然るに足下筆禍を買ふこと爾かく頻々たるは何ぞや、想ふに足下が自ら稱する如く民間新聞の香ひのするのが、其筋の鼻につくものにあらざるか、又時々足下の性癖を現はす皮肉とイヤ味と毒付きが、明石君の疳癪玉を煽ふるものにあらざるか。

◎然れども足下より足下の剛愎と我慢と諧謔とを取り除かば、頗る要領を得ざるもの一俗塊と化せん、水浪は水滯に化せん、其れと同じく今日の京城新報より足下の皮肉とイヤ味を取り除かば御用紙京城日報を學びて及ばざるてふ○○○○の如き腑拔新聞と化せざらんか、斯の如きは峯岸ありて峯岸死せるなり、京城新報ありて京城新報無きなり。

◎然らば民間新聞の特色を益々發揮せんか、峯岸流の皮肉とイヤ味と毒付きを益々發揮せんか、明石君の疳癪玉は益々猛勢を加へ、發行停止に次ぐに發行停止を以てし、終に浮み瀨無きまで追窮せん。

◎足下果して男の顏を立つる爲めには死生と成敗とを度外にして猛進する意氣を有するか、又足下は黃金と利害の前には何物をも犧牲にして顧みざるヨボ化せる猶太化せる此民間の爲めに、片思ひの情死をする程の正直ものにあらざるべし。

◎朝鮮の邦字新聞にして現存するもの其數十餘、何れも時代と官權とに屈伏すべく餘儀無くされ、何れも總督萬能の官吏大明神の御用紙又は準御用紙にあらざる無し、獨立獨步の地步を占めて公平なる通信と公明正大なる論議を爲し得るもの全く跡を絕つ、甚しきは民論と民權を呪ひ、我大和民族の元氣をしてヨボ化せしめんことを鼓吹奬勵して止まざる惡風澎湃として新領土を包めり。

◎此間に於て稍意を强うするに足るは足下の京城新報一あるのみ、足下の所謂民間新聞の色彩を帶べるは京城新報の一あるのみ、敢て京城新報の向背は、峯岸一個の問題にあらざるなり、足下たるもの大に自重せざる可らず。

◎自重せざるべからず、而も此ヨボ化したる民間の爲めに片思ひの情死を遂ぐべく足下に之を强いず、是れ決して賢き策にあらざればなり、又之を强ゆるもウンと勇み立つ足下にあらざればなり。

◎已む無くんば、足下の所謂時を待たんか、時勢の推移を待たんか、壘を高くし、濠を深くし、糧を節し、氣を練り、孤壘を死守し、以て一擧敵を屠り得る時運と聲援の到るを待たんか、是れ或は賢き策たるべし、最後の勝利を得る道なるべし。

◎吾人足下の人格、識力、文章、氣格には敬伏する能はず、而も其短くして太き軀幹と鍋の如き骨格とは十年南洋の怒濤と南米の熱風に曝らし上げ、鍛ゑ上げて更に益々剛健を加ゑ、如何なる外部の壓迫とも鬪ひ、如何なる艱難にも堪ゑ得る丈の體力と氣力とを有せり、其歪れたる象眼と蝦蟆の如き廣き口は世の中を愚弄し、人間を人間と思はざる橫着さ加減を表示して餘りあり、然して理財的才能に至りては最も其天品なり。

◎足下既に非凡の體力あり、持久の粘着力と我慢と蠻氣あり、之に加ふるに理財の天才を以てす、亦以て明石君の猛烈なる肝癪玉と相抗し、以て孤壘を死守するに足る、吾人意を安じて可なり。

◎唯足下を補翼するに能文の士を以てし、新進氣銳の記者を增し編輯上に精力を注ぎて紙面の改良を圖り、今少しく趣味ある新聞とすべし、然して餘りに峯岸流を以て獨占せず、輿論と民情との向背に意を致し、旗色を今少しく鮮明にして死守の中に益々民間新聞の本領を發揮すべし、天下を友とし天下の同情を得る者は即ち最後の勝利者なり、今や新涼人に可なり、幸に益々自重して勇健奮鬪せよ。

東京電報

▲大將と元帥　來る十一月下旬陸海軍の定期昇進を期とし東鄉、乃木海陸軍兩大將に對し特に元帥の稱號を賜はるべし

▲大久保大將の參內　大久保大將は來る二十五日參內朝鮮駐劄軍狀況紀綱教育衛生其他の現狀奏上の爲め天皇陛下に拜謁仰付けられたり

▲御發輦期　栗原宮內書記官、日野西侍從は大演習下檢分のため福岡縣下に出張歸京の上委曲伏命の結果大元帥陛下東京御發輦は愈來る十一月六日に御治定相成りたるやに承はる

▲西班牙內亂後報　マドリッド來電によれば西班牙無政府黨の暴動は益々猖獗となり政府は新聞通信其他に對し嚴重なる檢閱を爲し居れば暴動に關しては詳細を知る能はずアルフォンツは若し必要の場合にはカルカンベー、アルナナヲ兩市を全滅せしむべく命令を下したり右二市は無政府黨の政府當路者謀殺を宣言したる處なり

▲四川暴徒猖獗　四川暴徒は最初より深き根底を有する丈け意外に猖獗を極め今や成都城は暴徒の包圍する處となり右鎭定の爲め派遣されたる二千の新營兵は暴徒に加擔するの傾向あるを以て未だ鎭定の功を奏せず一方端方は宜昌より進行しつゝあれども目下恰も洪水の時期にして舟楫の便困難なるが故に速かに上流し達すること能はずと

▲林遞相の訓示　二十一日前九時遞信省樓上に於て全國遞信管理局長會議を開き劈頭林遞信大臣より左の如く一場の訓示ありたり(一)通信事業及び管理局事業に就ては既定の方針に依り力めて社會の進運に伴ふ施設經營をなし公衆の利便を增進する事に盡力ありたし(二)郵便貯金は歐州各國の實況に比較し大に遜色あるは遺憾とする所是れ奬勵して郵便貯金の增進を計り又振替貯金並公金取扱及び近く開始すべき集金郵便制度は共に周知の方法を講じ其發達を期せられたし(三)電氣事業法に就ては地方長官又は地方行政廳により電氣行政の本來の目的を達する事に力め又能く地方公共團體企業及其他の計畫の遂行に資せん事を力め且つ施行規則に基き一般人民に與ふる限り簡捷迅速を期せられたし(四)發電水力調査は既定計畫の完成に力められん事を望む(五)本省の事務は公衆の便を計るを精神とし誠實と親切とを以て公衆に接すること肝要なり殊に外國人に對しては深き同情を以て接する樣官衙職員を指導せられたし

▲九州の暴風雨　廿一日より廿二日にかけ鹿兒島、宮崎兩縣下に暴風雨ありて被害甚大なり

▲ヘボン博士逝去　英學界に貢獻する所少なからざりしヘボン博士二十一日逝去す

雜報

●集金郵便實施　既報の如く二十三日總督府令第百一號を以て郵便規則を改正し總督府所屬各地郵便集配事務及郵便爲替事務の取扱を爲し郵便官署の郵便區市內に限り內地同樣集金郵便を取扱ふ事となりたり今其の內容を記さんに本則に依り證書又は證券とは一現金受領證二株式配當券三公債又は社債の利券四現金受領證を添付したる貨物引換證又は船荷證券等にして同證券金額は一千圓を限度となし同集金委託料及集金送達料金は左の如し

一集金委託料
一口に付　一現金受領證　金二錢
　　　　　一證券　金五錢

集金送達料
取立濟金額に對し
一口に付
△一圓迄三錢△三圓迄四錢
△五圓迄五錢△十圓迄六錢
△五十圓迄八錢△百圓迄十錢
以上百圓迄毎に金五錢を加ふ

因に本則は來十月一日より之を施行す

●標準時改正　併合と同時に改正の筈なりし日本內地と朝鮮との標準時間は緯度の關係よりして東京より約一時間九州四國よりは約三十分遲れて計算し從來の儘行ひ來れるも斯くては中央政府と執務の關係及電報の發着信其の他凡ての點に於て不便尠なからざりしが今回愈右を改正する事に決定し本內地の標準時間と同樣と爲す事とし來る十一月頃發布さるべしと云ふ

●國境の稅關交涉　安奉線の修築工事は來る十一月初旬完成すると同時に京義線の修築其他の工事總て完成し多少稅關の關係に相違を生ずべきを以て其筋に於ては淸國政府に對し交涉を開始したるも未だに回答來らざる由なり

●地方視察官の常置說　內務部に於ては地方啓發上充分の施設を爲す方針にて新に觀察官を置き地方を巡回せしめ詳細の調査を遂げ勤儉貯蓄等を奬勵せむと來年度豫算に既に計上しありとか

●府郡參事諮問會　京畿道にては來る十月三日より府郡參事諮問會を開催する事に決したるが右は管內二府三十六郡を六區となし一區毎に開催する由にて其都度道廳より長官若しくは部長出席の筈なりと

●京釜線の複線　京釜線の重要驛間を複線と爲すべく右工事に關し總督府鐵道局は調査に着手したりと云ふ

●漢江鐵橋復線工事　漢江鐵橋は單線にて不便甚しき上に從來の工事は不十分なりしを以て鐵道局は本年度より之を複線にするの計畫なり先日來愈々橋脚据付のため杭打工事に着手したるが本年は最早結氷期に近きしを以て重なる工事は來春に於てなすべく竣工期は明年中なりと云ふ

●法學校の將來　朝鮮に於ける教育令發布と共に外國語學校と同じく多少社會の問題たりし法學校は其の筋にて愈々廢止せず此の儘繼續することに決定したるが單に法律政治等の科目を課するに止まらず內地に於ける高等商業學校の程度と改正する方針なりと

●京釜間直通電話　既報の如く京城釜山間の電話架設工事は秋風嶺を中心點として京城釜山の兩所より起工中なりしが右は愈々兩三日の中に竣工し來月早々開通の運びにいたるべく尚料金等は開通期日の決定と同時に發表さるべしといふ次に同じく京釜間の電信增加線は昨今工事に着手し居るを以てこれ亦近々の內に竣成すべしと

●學校官制發表期　新教育令の實施に基く學校の官制及其細則は既に脫稿し近々發布の筈にて實施期は多分十一月頃ならんといふ

●紀念植樹の調査　農商工部にては去る四月三日各道に紀念として植樹したる樹木の生育狀況に付本年水害後に於ける成績を調査すへく此の程各道に照會を發したるが該調査終了期は多分來る十一月初旬なるべしと云ふ

●盲啞部の開始期　濟生院の盲啞教育は近々開始の筈なるが其主任たるべき人選未だ決定せざるも多分十月下旬頃には開始を見るならんと云ふ

●朝鮮滊船數　目下朝鮮全道に於ける船舶中滊船の總數は四十七艘にして八千四百四十噸七二、帆船八十二艘二千五百噸一二、石船帆船二十五艘六千七百二十一石、不登簿滊船二十艘百九十五噸二八、なりと云ふ

●軍司令部水道工事着手　既報の如く龍山軍司令部の水道工事は軍司令部の委託を受け京畿道水道係に於て設計しつゝありしが鐵管の如き內地へ注文し來十二月には着荷する筈なるも司令部側にては該工事を急ぎ居れば過般京城水道斷水の折龍山元町四丁目より鐵道水源地に接續敷設したる鐵管其儘になり居れば此の鐵管を流用する事となし二十三日より愈々工事に着手したるが尚他にも流用すべき鐵管あれば來る十一月迄に漢江通水道町一二丁目其他の敷設を了す筈にて其他は結氷期に入るを以て來年四月更に起工し同六月には給水の豫定なりと云ふ

●民會の道路委員會　京城本町道路擴張委員會は二十三日午後一時より民團役所樓上に於て開會したるが出席者は中村委員長を始め皆川、大村、大村(百藏)古城(梅溪)原、山口の六委員にて種々協議の末民長に意見書を提出し其の上にて民會に附議することゝなるべしといふ

●商工調査會總會期　既報京城商工業調査會は昨今委員に附托すべき調査事項を研究中なるを以て終了後來月定期總會を開くべしといふ

●勸業債券賣出し　日本勸業銀行債券は去る十一日より賣出したるが京城に於ける取扱銀行は第一、百三十十八の三銀行にて例年よりも成績佳良なりといふ因に締切期日は本月三十日なりと

秋季皇靈祭

●安東の埠頭　滿鐵會社に於て設計したる安東縣埠頭は工事計畫成りたるを以て近々着手の筈なりとは既報の如くなるが右設計は四個の浮棧橋を設け一千噸以上の船舶二隻を橫付せしめ得べしと云ふ

●湖南線中停車場位置　湖南鐵道中木浦と鶴橋間線路は既に決定せられたるが鶴橋榮山浦間の線路及び停車場位置等去十一日付を以て發表せらる其間の總哩數は約十一哩餘鶴橋より四哩にして古幕院停車場なり更らに六哩七十七鎖にして榮山浦停車場に達するものなりと

●稗の除却高　京畿道にては七月以來各郡へ對し稗拔取方督勵中なるが驪州郡に於ける八月末日迄の稗除却高は三千六百二十四町六反に對し七千六百九十三貫の稗を拔取りたりと

●羅南赤十字婦人會總會　羅南に於ける赤十字愛國婦人會委員部にては二十四日羅南旅團司令部步兵第四聯隊將校集會所に於て第二回總會を開催する由なるが當日本社長本會長及朝鮮本部總長同本部長より祝電を發送せらるゝ由群山木浦兩委員部にては來十月中旬を期し赤十字社員愛國婦人會員總會を開催する筈にて目下準備中なり

●戰地勇士墓地改修　平安北道定州は三十七八年戰役最先の衝突地にして加納騎兵中尉濟末特務曹長外四騎兵の戰死せし所にして同勇士等の忠魂碑建設せられ定州在住內地人は毎年祭典を執行し來りしが今回該戰死者の墓地を改修し玉垣石門石燈籠等を建設する計畫を立て汎く同情者の義金を仰ぐ事となりしは實に美事と云ふ可し義捐者は定州郡西部面中尾義勝氏宛送金あるべし

●尾高氏の稷山視察　滯在中の興業會社專務尾高次郎氏は廿三日稷山視察に赴きたるが市原總裁竹山第一銀支配人等停車場に見送られたり

●米國武官の北行　滯京中なりし米國武官ホールソルは中佐は二十四日平壤へ向け出發せり

●ハリス博士の學務訪問　ハリス博士は廿三日總督府に關屋學務局長を訪問し教育令實施に伴ひ宗教學校の今後に關し種々聽取する處ありたりと云ふ

●關野博士の北行　總督府の囑托により入京中なる關野博士一行は二十二日出發開城に赴きたり

●生田書記官の榮動　農商工部農務課の生田書記官は水害課兼任を命ぜられたり

●武田報知特派の歸期　東上中の報知新聞特派員武田卓爾氏は來る二十七八日頃歸京の筈なりと

●加藤中尉歸任期　目下管內巡視中の京城第一憲兵分隊附加藤中尉は來る二十八日歸任の筈

●騎馬にて北漢山登り　憲兵司令部及警務總監部員十七八名は二十四日午前八時獨立門に集合全員騎馬にて北漢山登山を試むる筈なりと

●經學院の孔子祭　經學院の季孔子祭は大提學朴齊純子主となり二十三日李洞成均館に於て擧行せしが頗る盛典なりき

●取調局の圖書室　取調局に於ては奎章閣の書籍全部の引繼を受け之が整理中なりしが今兩三日にて終了するを以て公務の參考に供する官吏又は民間の篤志家にして可然紹介者ある者に限り縱覽を許す方針なりと云ふ

●府民會解散と褒賞　既報の如く漢城府民會は廿四日奬忠壇に於て解散式を擧ぐる筈なるが當日は府民會功勞者に對し銀盃五十餘個を與ふる由にて貴族中には金台植子外五六名實業家側には白寅基氏外數名其他坊長等なりと云ふ

發人私人

▲本田幸介(勸業模範場長)　二十二日巴城館ホテルへ
▲駒野治衛(步兵中尉)　二十二日巴城館ホテルへ
▲熊倉又吉(步兵少尉)　二十二日巴城館ホテルへ
▲關野貞(宮內府囑託工學博士)　二十二日開城行
▲栗山俊一(宮內府囑託)　二十二日開城行
▲谷井濟一(宮內府囑託)　二十二日開城行
▲菱田義民(忠南道內務部長)　二十二日公州行
▲指宿武吉(技師)　二十二日水原行

京龍兩驛の賃客

▲南大門驛乘降客(廿二日分)
▲乘車客　三九三　降車客　八八四
▲乘車賃金　一、一八八、七一〇
▲南大門驛貨物發送高(廿二日分)
發送貨物　四八噸　到着　四四二
貨物金　一〇一、一七〇
▲龍山驛乘降客(廿二日分)
乘車客　二二五　降車客　二三〇
乘車賃金　二〇〇、九八〇
▲龍山驛貨物發送高(廿二日分)
發送　四二噸　到着　九八〇
貨物賃金　八〇、一〇〇

▲京城手形交換高▼

九月	金高	枚數
廿四日	一一、六七四、九九〇	四二一

▲治外法權▼

英國銀行と獨逸銀行とが殆んど同時に利子を引揚げた、ソレで我在外公債の値が下がつた▲前內閣が四分利を標榜して財界の人心を吊つたのも束の間、今ぢや四分はオロか五分五厘否六分に廻らなけりや我公債を持つものはない、減債基金問題で前內閣が投出したのは寧ろ明かりと云つべしだ▲釜山民團が六分の民團債百三十萬圓?を五分利に借換へたのは大成効だと思つて居たら、今度某なる人より低利借換周旋料三萬圓支拂請求の訴訟が同民團理事者に對して提起されたツウだ、低利低利と騷いだところで裏面がコレヂヤ困まる▲ストリピンは暗殺ロバートハートは老死、死は一なりと雖とも死因は全然違ふ、吾人の厭ふべき前後何れの死因か▲此頃京城の愛馬家が寄つて乘馬倶樂部を組織すると云ふ噂がある、で、同倶樂部の中心は無論中山騎兵大佐ダローとの事だ▲愛馬家と云へば三井物產の淺野も其一人で、彼れは最近例の「オニカゲ」を北海道產の名馬(?)朝風に乘り換へ、痔の起らざる程度に於て鞍上人有りを試みてるソウだ▲聞く度支部の鈴木は愛馬乘馬家中の尤、彼れ百八度の熱天騎して總督邸に到り、主人伯を驚かしたことがある▲鞍上に於ける鈴木此頃の姿勢は立派なもの、併しソレにも增して立派なるは彼れの各式鞍及びドイツ、イギリス、フランス式鞍の優劣比較論だと云ふ事だが、果して眞か否か。

淸涼里行

曉香居士

暫然郷扉に引籠つて居るのも能では無い、時候はよし、天氣はよしで、郊外散策には御誂へ向きであると曰ふのから割出して、淸涼里の秋色を探らむものとて足を運ぶ事にした、果して其名の示す如く淸涼の里であるか否、何にもためしであると曰ふ好奇心にかられて、時は九月の八日午後の三時、吾が廬を飛び出した、西大門をはいつて、うねり〱て光化門の通に出たが、樂より自分は電車に奉納する御賽錢だに無いのだ、仕方がない、鐵路の通と一直線ぐ電車との競爭だ、恰も兎と龜との樣なものだが電車は中々晝寢しない二町歩き三町行く程に、電車は今日は〱、御先へ〱と曰つた樣な風に、幾臺となく失敬するのが如何にも癪だ足に任せて尙二三町行くと、電車の交叉點に出た、右と左には電車が客待顏に停車して居る、瓦斯會社の時計臺の時計は幽に四時を指して居るのに驚かされて、急け〱で勇を鼓して行く程に、やつとこさと東大門が向ふの方に霞の中にぼんやり見ゆる、まだ中々前途悠遠しである、馬車馬の樣に、わき目も振らず向ふの方ばかし見て行くと後ろの方でエーイ〱の懸聲勇ましくほんとの馬車がやつて來る樣だか、先が急がれるので顧る遑が無い、大方今の世に時めく人の御通りならんど、やがて馬蹄車轍愈迫る、余をして道路の一側にさけさすの已むなきに到らしめた、車中の人は誰ぞ首を上げて遙かに窺へば之れは之れ、何ぞヨボならむとは、駒は勇んで後に砂煙りを殘して去る、電車已に癪なるに、今又ヨボの馬車に驚かされて、又一層癪だ、然し之も時世、時節とあきらめて、天下の公道を濶歩して行く程に、何時しか東大門の側に來て居る、ヨボの御巡り樣の道のりを聞くと、之からまだ一里半と思つたから、傍に居た婦人に淸涼里に道を聞くのも、何だか氣がきかないれますぜ、まあれはいやすと大阪なまりの關西言葉、親切こかしの釣込ま幾には聊か驚かざるを得ない、矢張之でも金があると見ゆるから不思議だ、やれ〱まだ一ふんばりあると考へた處で仕方がない、又も前進開始、路傍の兩側には不相變鮮人家屋が軒を並べて居る、暫く行くと段々夫が稀薄になつて來てそこに一軒、こゝに一軒、水田あり、果樹園あり、豆畠あり、芋畑あり、で、もうこゝらは全くの田舍である、あちこちの稲の穂は已に出揃つて居る、首を垂れて居るのもあれば、ツンと澄まして上を向いて居るのもあるその上を傳つて來る風は亦一種言ふべからざる香氣をもたらして來る、鍵やらの俗諺に

出來のよい程高ぶらぬ

た餅備して居る稲穂がゆかしとか、全く其通である、行く程に、歩く程に、電車とはどこ迄も道連れである、矢張人をあざける如く自分の目には映ずる、路傍に五六歳の鮮童が兩三人遊んで居る、彼等は邦人を見ると逃ぐるが習ひなるに、なつかしげに、「ヨンガミサンオデカヨ」との問を發した、流石にこゝらも邦人の往復が頻繁なるかどうなづかれる、やがて樹間を過ぐれば石橋に出づ、水溜れいたづらに人馬の往來する處となつて居る、川もこうなつては何の趣味もなし、田の中に倒れかゝれる案山子、鳴子の音に驚かされて逃ぐる雀、鍬をかたげ行く農夫桐の一葉ならで名も知らぬ木の葉の三ひら五ひら落つるのを見るに付けては何だか風情ありげである、路傍の草叢に、女郎花のたつた一本あわれに風にわなゝいて居るのも秋のあはれを知れきにや、あちこちの茅屋にはもう申合せた樣にも烟を上げて居る夕餉の仕度なるべし、何處も同じ秋の夕暮とは蓋し此景により出たと曰ひ度くなる翳鴉林に沒し、入るに早き秋の日は既に姿をかくし、煙霞は南山の裾を縫ひ、暮色蒼然たる頃やう〱電車の終點に着きぬ、淸涼里とはこゝ等一体ヶ總稱したる名なりとかや、元山に通ずる鐵道は目下工事を急ぎつゝあることの停車場は既に八九分通り出來上つて居る、營業開始の曉は京城よりする人は多くこゝで昇降するなるべし、傍に日鮮人の掛茶屋が三四軒、軒を並べて人の袖を引いて居る、喉はかわく、腹はへる足は勞れる、休みたい、飲みたい、食いたいのは山々なれども、如何せう獻納資金がないさなきだに、飲むにのけ食ふにつけ、敢て人後には落ちぬと曰ふ余の心中思ふべし、折角來たから殿妃の陵も、王妃の陵も、見まほしけれども、日は暮れて道既に遠しで止むなく又の日に讓り人目も草も見ね分かぬ頃千草にすだく虫の音を他所にして歸途に就く、時に入相初夜の鐘遠く聞え近くは里の砧の音通ひ來て寒風愈身に徹するを覺ゆ。（九月十三日稿）

●新町廓〔八〕口入屋の卅分（三）　白面子

女將の正直さに少々氣の毒な心が起つたが僕は何か聞き出すのが稼業とあつては佛心は未だ出せない「當地には西洋人も少しは居られる樣ですが洋妾の口などはありませんかしら」と女將の大分熱を冷さうと試みる「手前の方では扱つた事がありません、兎に角貴君も竹田町と仰云れば所天とは同郷人でサゾ懐かしがる事でしよう」と心を置かぬ挨拶振り、斯うと知つたら福岡とでも云つて置けば面倒が無くて宜かつたのにと思つても跡の祭り、千慮の一失と云はうか、モウ破れかぶれだ行ける處まで行つて試みろと度胸を据わる「大分と云へば高島屋も皆樂樓も病院の杉原先生も同縣です」と言ると女將は負けては堪らんと云つた風に躍起となつて「エ、エ玉家も元の南山樓の櫻井さんも南部署の長野刑事さんも」と大分縣人會の名簿を讀み上げて滾々として盡きない、事面倒なりと見て取つた我輩「時に高島屋の主人は今東京に居るさうですね」と尋ねると女將は直に引き取つて「エヽ東京に居られます先日一寸當地へ來られましたよ實は私は元高島屋の仲居をして居ましたがね旦那（高島屋の主人）は私の顔を見ると仲居にしては若くて容色が美過ぎるツて人の惡いことを云つてヨーク揶揄て斗り居られましたつけ」眼許口許に誇りの色が漂ふ、此の際僕も何とか云はねばならぬ「イヤ夫れは實際です女將さんの如な仲居さんが居ては肝腎の妓嬢が迷惑だよ」と油を掛ける「憎らしい……貴君も人が惡いこと」と睨む眼許に言ひ知らぬ愛嬌がある「高島屋の妓嬢は鶴鶴樓に引き繼いだんですね」と判り切つた事を尋ねる「左樣です、が現在日曜樓の白雲さんアノ妓さんが元高島樓のお職の叙さんです仲々の手取女でした、先日も京城新報に何か出て居た樣でしたよ」と答へる「ヘエー左樣ですか」と白ばくれる、女將曰く「白雲さんは私より三歳上ですが……お氣の毒な方です」と云つて小さい溜息を吐く

話が理に落ちて來た「時に私の姉達の方だが田舎へ還らうとして其の方の景氣は何うですか」と訊くとフツと氣を變へた女將「景氣も景氣も大景氣です、八月末の事でしたが井門支店の瀧子さんは年滿となつたのですが精算の結果別借が百圓餘りあるので來年の七月迄位稼がねばならぬと帳場さんに云はれたので吃驚仰天、四年も稼いだ上又一年も働かねばならぬのかア、嫌だ〳〵又其一年の間に病氣でもしたら又モウ一年と延々になつて自由の身となるのは何年の事やら判らない、夫れに井門の方の借金以外小間物屋すし屋、貸本屋、洗濯屋其他のコマ〳〵したの許りも百圓足らずの借があるので思ひ切つて田舎へ藝妓で世話して呉れと手前所へ相談がありました」女將の舌は滑かに回轉する、要するに熟練の結果であらう。（つゞく）

●意趣斬か物取か

▽慘殺して火を放つ
▽竹園町の悲雨慘風

二十三日午前十時頃南部竹園町三丁目四番戸の裏手より發火したるを認めたる附近の人々驅け付けて消し止めんと踏み込みしに驚く可し同家入口の門の敷居を枕に仰のけ樣に殺され居たる女あり兎角して火を消し止めて屍體の模樣を見るに細き紐と腰帶とをぐる〳〵頸に卷きつけて絞殺したる上鋭利なる兇器を以て後頭部を右耳の後部より斜に左耳下に斬下げ其他頭部にのみ七ヶ所の刀創を加へあり前後を想像して考へ合はすに曲者は深夜戸を叩きて被害者を呼び起し門を開けし刹那急に打ち倒して絞殺し猶意趣晴しに斬り付けて其充分死したるを見定めてのち罪跡を蔽ひ證據を堙滅せん爲め放火して湯殿の窓口より遁逃したるもの〻如し猶被害者は原籍栃木縣鹽谷郡滑洲村字深程二十四番地平民島村孫平の二女イト（二五）と云者にて目下日本新聞社員小栗榮吉內緣の妻なるが小栗は從來高利貸及び質屋を業とし附近の者の憎まれものなりしが近頃詐僞横領罪に問はれて入監中なれば加害者は此邊の事情を知つて兇行に出でたるに非ざるかとの說もあり

▲被害者の素性　被害者いとは十七歳の頃より實姉とみが東京淺草の或る新炭商に嫁付き居たるより家事見習兼女中として在住中現在の內縁の夫榮吉が同じく東京に於て英和語學校に在學し該新炭商店の座敷を借り受け自炊中なりしと親しくなり夫婦となり明治三十九年の春渡鮮して前記の如く榮吉が高利貸兼質商を營む事となりしが直に鮮人相手なるよりいとも朝鮮語を覺へ一昨年頃よりは通譯を要せぬ迄に精通し榮吉が日本新聞支局を引受けし以來はいと名義にて金貸と質屋を兼ね惡辣なる手段を回らすこと榮吉以上にして鮮人や近隣の者は鬼女將と仇名され居たり

▲被害の動機及狀況等に付　精探する處に因れば夫榮吉が詐欺取財犯として其筋に拘引せられし後被害者の名義にて金默容なる者に家屋抵當に高利にて金員を貸與し置き流質期限到來せしとて競賣に付し金三百圓の不當利得を爲したりとて金默容は鮮人辯護士金聖朴に依賴し京城地方裁判所檢事局に告訴され檢事の示談勸告に因り金三百圓をいとより支拂ふ事に示談解決し去る二十日に檢事の面前にて支拂濟みにて不起訴處分となりしが夫より以前該金三百圓の調達に數日を要せし間諸所に於て該金を見せたる事あれば右の事情を知りたる者の所爲らしく而して被害者の創傷が日本刀を以てしたる形跡ある由殊に兇行時刻は午後十一時頃にして前記の如く犯跡を晦さん爲め放火したるもの〻如く推せらるれば犯人は日本人にあらざるやとの風評あり

事件發覺と同時に警務總監部よりは玄角保安課長及司法主任安藤警視等は數名の刑事を隨へ地方裁判所よりは伊藤檢事書記を隨へ現場に出張檢視し死體は民團に引渡し終つて伊藤檢事其他の一行は銅峴分署に到り目下入監中なる小栗榮吉を呼出し種々の關係事項を尋問し二十三日午前十一時榮吉の訊問を終り拘引中の嫌疑者二名の訊問に移りたり而して被害品は質物に取りたる紬其他物品數十點外金品數百圓にて目下取調中なるが引き續き非常線を張り犯人捜査に全力を盡し居れり

●遊興最中に死亡

▽第一樓上の心臟痲痺

二十二日午後十二時十分頃新町第一樓本店に三人連れの醉客威勢よく登樓し敵妓として高窓濟香花香の三人を揚げ散財を初め飲め食へ歌へと大散財中午前二時頃高窓の客の一人ウチロロヤカセを踊り出たるが突然嗚呼苦しいと叫び卒倒したる同伴の掛醫士は多々見醫士だと一言吐き脫糞し絶息したるより連れの客は勿論三名の娼妓等は吃驚して大騷動となり樓主も此の頃東京より新妓を抱へ來り開店早々縁起惡るしと自身に杉原醫士の許に驅付け之と同時に多々見醫士中島醫士に電話を掛け警察に急報せしより三醫士立會檢視の結果心悸不能症にて即死せし者にて原籍は長崎縣長崎市大浦出雲町當時永樂町二丁目六十三番戸ペンキ塗職渡部正美（六二）にて豫て心臟病に罹り多々見醫士に掛り治療中の處一ヶ前全治せしとて服藥を止めたる由にて二十二日夜友人麻作太郎谷川勝義兩人と共に一杯飲み其元氣にて登樓したる由にて死體は妻しめに引渡したりと

●本町組に亂入す

▽別府組の車夫六名

本町一丁目人力車帳場本町組と同二丁目別府組では職敵にて互に睨み合ひ居りしが二十二日午後八時頃突然別府組より篠田千太郎外五名の車夫本町組に亂入して大騷動に到らんとして警官出張して本署に引致せられたるが本町組管理人江守清次郎は篠田千太郎外五名に對し家宅侵入として告訴目下取調中

●强姦した男を斬る

▽被害者は懲役七ヶ年

去る八月二十日の夜京畿道金浦郡陽村面禾基里五統八戸農白南都の妻趙豊九（二四）が隣家の劉有福（四十）の爲め强姦の辱しめを受け更に和姦を强ゐられたるを憤慨し同二十三日午前四時劉の家に忍び入り劉の熟睡せるを窺ひ携へ行きたる草苅鎌を以て劉を見懸けて滅多斬りに斬付け右側腹部に長さ十分深さ二寸の刺傷右上膊後面上部に長さ四分深さ一寸の刺傷左腕部に長さ三分深さ一寸の刺傷其他大小十七ヶ所の傷を負はしめ正に殺害せんとせし騷ぎに金浦警察署よりは係官及今村醫士出張檢視の上被害者加害者共京城地方裁判所仁川支部に引渡され豫審に付せられ居たりし事件は本月二十三日公判開廷被害者劉有福は懲役七年に加害者趙豊九は懲役二年に處せられたり

●施餓鬼會と說教　花園町曹洞宗日韓禪寺にては二十四日彼岸の中日に付午後一時より恒例山門大施餓鬼會並に說教等ありと

西洋商話

●金一圓五錢に引受申候

一圓を一圓五錢に受取つて買物をさせる珍商向、先づ新聞に大賣出しの大々的廣告を掲出し其一隅に五錢白銅の一面を刷込、之を切拔きて御持參の上御買物下さらば金一圓を金一圓五錢に御引取申候と云ふ次第で賣出しに引寄せると同時に廣告も熟讀させる一擧兩得の商略遣に一般の好奇心に投じて賣出しの蓋を開ける否やドャ〳〵と潮の如く押寄せ來りし顧客は實に一萬五千人

●演藝だより

▲浪花館　大人氣なる吉川今勝一行二十四日の讀みものは左の如し
讀物神崎與五郞（吉川孤舟）慶安太平記（廣澤樂園）三島考太郎、紀尾井阪爆烈彈（吉川今勝）

▲壽座の琵琶大會　朝鮮研究會主催の同會二日目（二十四日）の番組左の如し

▲二十四日出演者　一本能寺（井上霞曉子）敦盛（大塚曉潮子）臺灣入（薩摩）鎌田清風子）明智湖水渡（霞泉女史）川中島（上野豐秋子）廣瀨中佐（薩摩）（久木田天江子）太田道灌（曉濤子）常陸丸（望月ゆき子）松の廊下（某子）外に飛入出演者數名あり

▲歌舞伎座　木村猛夫一座二十四日の代狂言は前「酒の罪」二番目「蘇生」

▲壽座の新派劇　新派劇壇の驍將後藤良助一行四十餘名は二十五日當地乘込み二十六日初日を出す筈なりと云ふ右の爲め座方にては道具方を督して既に大道具の新調を急ぎ居れりと京城の劇界爲めに活氣を帶び來る

▲龍山櫻座　木村猛夫の一行は二十四日限り當地打揚げ二十五日より七日間龍山櫻座に於て開演すべしと

第三十五號
公告
一、白鳥劍製一羽　當民團立日出尋常高等小學校備品へ
右ハ大和町二丁目四十三號官舍闕屋貞三郎殿ヨリ寄附相成候條此段公告ス
明治四十四年九月廿二日
京城居留民團民長　古城菅堂

第三十六號
公告
一金二十圓也　當民團立小學校基金へ
右ハ旭町四丁目十六番地高田官吾殿ヨリ寄附相成候條此段公告ス
明治四十四年九月廿二日
京城居留民團民長　古城菅堂

購買入札公告
一、二百封地下鉛被紙ケーブル七百碼外六點
右購買ス詳細ハ九月二十三日ノ朝鮮總督府官報ヲ見ルヘシ
朝鮮總督府通信局

冬物荷揃

營業品目
流行帽子類　旅行用化粧箱及
メトヤス類　鞄トランク類
毛布膝掛類　化粧品各種
洋服付屬品　其他文房具
袋物類　學校用品一切

京城南大門通三丁目
泉屋 甲田種次郎商店
電話七一二番

▲西陣御召類
▲西陣織帯地類
▲西陣織物色々

長

西陣織物商
酒井商店

TRADE MARK

▲耐久無比實用向タイヤー
英國製アイロンタイヤー

歐米各國自轉車直輸入
京城本町二丁目
織居商店
自轉車部
電話四八〇番
電略(オ)

農具ト蠶具

京城三輪商會
戸田春藏
電話三八六番
振替三七五番

……新荷着……

▲烟突用鐵板……
●右今回新荷着仕候間多少に拘らず御用命願上候

營業品目
鐵各番浪平板　電渡線　垣用線
洋釘　銅眞鍮板及び地金　石油其
他雜鑛一切

▲ブラケー靴底金朝鮮一手販賣元

京城南大門通り二丁目
福田又京城支店
長電話白二十二番發電略(フ)
振替貯金京城二九二番

伯林イゾラ會社製
魔法瓶

寒中溫かいものを入て置けば
廿四時間入れたときと同じ溫かさですから夜中れ
子供の哺乳用として將又遊
山遊獵の節欠ぐ可らざる逸品

定價　大四圓
　　　中三圓

朝鮮一手販賣
京城本町二丁目　京城府廳前
熊平商店
電話六二四番

新荷着

一白耳義製自動五連發銃
一英國製二連發銃
一米國製二連發銃
一米國製單身銃
一內國製無鷄頭銃
其他無烟火藥塡裝ケース各種
○修理は迅速叮嚀に可致候

京城明治町二丁目
瀧川銃砲店
電話三〇二番

▲呑んで宿酔せぬ酒……
◎現金で壹升三十錢の……酒
▲呑んで見ればは味はわかる……論より證據
……速くれ試しなさい……今直ぐに……
○御入用の御方は市內は電話其他は葉書にて御照會下さい
○御小賣御希望の御方は御照會ありたし

度支部釀造試驗所釀造
酒類發賣元　大一商店
京城南大門通り三丁目十五番戸
電話二一七二番
發電略號タ一

冬物荷揃

確實
正札

京城本町三丁目
丸一呉服店
(電話六三五番)

冬帽子
各學校指定制帽賣捌所
新荷着

京城本町二丁目
ミナト帽子店

▲地方より御注文は御一報次第迅速御發附可申候

金銀 玉石 水晶
印章版木彫刻
ゴム印彫刻鑄造
印肉各色製造
石版名刺印刷

京城明治町三丁目
八谷西海堂印舖

活版印刷

▲迅速叮嚀▼
▲價格低廉▼

京城太平町三丁目
鮮明社
電話千百五十四番